

チャイナ・マーケット・インサイト

CHINA MARKET INSIGHT

中国の市場・業界・商習慣を徹底調査&研究

巻頭特集

中国ウィンタースポーツ市場&産業の発展状況

北京冬季オリンピック開催決定で急成長

業界研究 中国モバイル決済

「現金お断り」も“当たり前”の中国キャッシュレス社会

微信支付と支付宝の牙城に挑む銀聯「雲閃付」

業界研究 中国百貨店業界

中国百貨店業界の現状を徹底分析

業態改革で低迷から脱出か？

都市別マーケティングレポート

フリマと動画のロンド②

習慣化する中古品取引&飽きさせない動画アプリ

2022年の北京冬季オリンピック開催を控え盛り上がる中国ウィンタースポーツ
(写真:黒竜江省ハルビンにある世界最大の屋内スキー場「万達娛雪樂園」)

CHINA MARKET INSIGHT



2 巻頭特集 **中国ウィンタースポーツ市場&産業の発展状況** 北京冬季オリンピック開催決定で急成長

16 業界研究 **中国モバイル決済** 「現金お断り」も“当たり前”の 中国キャッシュレス社会 微信支付と支付宝の牙城に挑む銀聯「雲閃付」

24 業界研究 **中国百貨店業界** 中国百貨店業界の現状を徹底分析 業態改革で低迷から脱出か？

34 都市別調査 **都市別マーケティングレポート** フリマと動画のロンド② 習慣化する中古品取引&飽きさせない動画アプリ

36 編集後記

巻頭特集

中国ウインタースポーツ 市場&産業の発展状況

北京冬季オリンピック開催決定で急成長



2022年に北京で冬季オリンピックを開催することが決まり、中国におけるスキーやスケートといったウインタースポーツへの注目度がにわかに高まっている。ウインタースポーツ市場は大きな成長期を迎えている。



北京冬季オリンピックは中国のウインタースポーツ人気に火をつけた

国家体育总局は18年9月、『氷雪スポーツへの3億人動員』実施綱要（2018-2022年）を公布し、22年までに3億人を氷上雪上スポーツに参加させることを目標に掲げた。

これに倣い、各省・市も相次いで関連政策を制定。ウインタースポーツの発展と大衆の動員に取り組み始めた。



スキー場などウィンタースポーツ施設の数が増加中だ

スキー場などのウィンタースポーツ施設の数が増え続け、スキーを楽しむ人の数も年々上昇している。氷雪関連産業や冬ツアー、イベント、スキー場の建設や運営、スクール運営などには、ベンチャー資本からの熱い視線も集まっている。

国家体育总局が公布した「冰雪スポーツ発展計画（2016、2025年）」によると、中国の冰雪関連産業の規模は20年に6000億元、25年には1兆元に達すると見込まれている。巨大な潜在性は、氷上・雪上スポーツ発展の原動力となっている。



中国の冰雪関連の産業規模は今後3年に更に成長

以下では、スキー産業を中心に、中国のウィンタースポーツの発展状況を詳細に見ていくことにしよう。



黒竜江省・ハルビンの万達(ワンダ)室内スキー場の様子

**契機となった冬季五輪誘致
急発展するスキー産業**

中国のスキー産業の発展は4つの段階に分けることができる。

まず、1994～2001年。黒竜江省亜布力風車山などに初の大型スキーリゾートが誕生。中国の庶民にもスキーを楽しむ人が現れた。2001年から2007年頃には、都市郊外型スキー場が登場。北京など大都市の郊外に多くのスキー場が建設され、大衆スキー市場の発展が始まった。



リゾート村形式のスキー施設として人気の黒竜江省「亜布力陽光度假村」

【表1】中国スキー場設備

	2017年	2018年	増加数	増加率
スキー場	703	742	39	5・55%
リフトのあるスキー場	145	149	4	2・76%
屋内スキー場 (人工雪)	21	26	5	23・81%
スキー場利用者数 (万人・延べ数)	1,750	1,970	220	12・57%
スキー人口 (万人・延べ数)	1,847	2,113	266	14・40%
乾地スキー場面積 (平方メートル)	123,220	152,420	29,200	23・70%
バーチャルスキー設備	69	145	76	110・14%
リフト	236	259	14	5・93%
ゴンドラリフト	48	54	6	12・5%
ムービングベルト	1,076	1,196	120	11・15%
人工雪設備	6,600	7,410	810	12・27%
圧雪車	485	541	56	11・55%

出典:中国スキー産業白書

2007年から2014年には、アメリカのスキーリゾートやスキー不動産市場の運営モデルが採り入れられ、黒竜江省の亜布力陽光度假村に代表されるリゾート村形式のスキー施設が登場。吉林省の長白山万達、河北省の張家口崇礼雲頂などにも相次いで大型スキーリゾート村が建設され、中国の冬季五輪誘致の基礎が完成した。

2015年から現在までは冬季五輪誘致成功後の産業発展段階。15年に冬季五輪の誘致が成功すると、崇礼（河北省張家口市）や吉林省などで更に多くの大型スキーリ

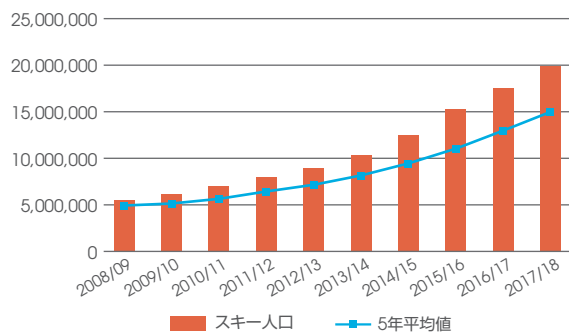
ゾート施設が建設された。

政府のサポートも強化され、庶民のスキー熱も高まりを見せている。万科などの著名不動産デベロッパーも相次いでスキー市場に参入。中国のスキー業界は今、オリンピックブームに沸いている。

**スキー人口2100万人突破
スキー場の数も約750ヶ所に**

2019年に北京で開催された「アジア・太平洋雪上産業フォーラム」で公表された「中国スキー産業白書」の統計によると、2018年における中国のスキー人口は

【図1】中国のスキー人口の推移



出典: Laurent Vanat「世界スキー報告」

屋内及び屋外スキー場の利用者は1970万人、乾地（スノーマツト）スキー人口は85万人、室内のバーチャルスキー施設の利用者も58万人に達している。

（図1…中国のスキー人口の推移）



スキー人口は増え続けている

2113万人、前年の1847万人よりも14・4%増加した。

黒龍江、吉林、河北に集中

中国のスキー場の多くは東北と華北地区に分布し、すでに400ヶ所近く存在する。

（表2…中国のスキー場分布）



中国の大型スキー場の様子

スキー場の数も、2017年の703ヶ所から742ヶ所に増え、世界の3分の1を占めるに至っている。うち、ケーブルカーのあるスキー場は139ヶ所、リフトのあるスキー場は149ヶ所ある。

リフトの総数は259本、ムービングベルト1196本、人工雪設備も7410台に達している。

（表1…中国のスキー場設備）

【表2】中国のスキー場分布

順位	省	2018年の スキー場数	2017年の スキー場数	2018年の新規 スキー場数
1	黒竜江省	24	124	0
2	山東省	65	61	4
3	新疆ウイグル自治区	60	59	1
4	河北省	59	58	1
5	山西省	48	45	3
6	河南省	43	42	1
7	吉林省	43	41	2
8	内モンゴル自治区	42	37	5
9	遼寧省	38	37	1
10	陝西省	34	31	1
11	北京市	24	24	0
12	甘肅省	21	20	1
13	浙江省	19	18	1
14	江蘇省	17	15	2
15	重慶市	16	14	2
16	天津市	13	13	0
17	寧夏回族自治区	13	12	1
18	四川省	11	11	0
19	湖北省	11	7	4
20	貴州省	10	10	0
21	湖南省	9	8	1
22	青海省	8	7	1
23	雲南省	4	2	2
24	安徽省	3	3	0
25	広西チワン族自治区	2	2	0
26	江西省	2	0	2
27	広東省	1	1	1
28	福建省	1	1	0
合計		742	703	39

出典:中国スキー産業白書



新疆ウイグル自治区のスキー場数は全国3位(写真ウルムチの観光スポット「天池」)

著名調査機構IDGが華騰氷雪産業機構と共同で発表した「中国氷雪産業発展研究報告(2018)」によると、華北と東北の2地区において2017〜18年の冬季にスキーに訪れた人の数(延べ人数)は1139万人に達し、スキー人口(延べ人数)全体の59%を占めたもよう。うち、黒竜江省と河北省のスキー人口は200万人を超え、吉林省でも193万人だった。

華北地区の代表的なスキー場は、張家口崇礼滑雪区、北京近郊区、内蒙古阿爾山、内蒙古呼倫貝爾、天津蓟県周辺、山西太原・晋中周辺など。東北地区には長白山、亜布力、吉林北大湖、哈爾濱吉華、瀋陽棋盤山、吉林松花湖などがある。華東地区では浙江紹興喬波(室内)、杭州大明山、安吉江南天池などが代表的だ。西南地区は成都太子嶺、六盤水玉舍雪山、涼都梅花山など。ほかにも雲南玉龍雪山、貴州六盤水、四川西嶺景区、阿坝州周辺など良質なスキー場が増えており、スキー人口も増加し続けている。



崇礼万龍にあるハイアットホテル

2022年の冬季オリンピックの開催地である崇礼(河北省張家口市)を例にとると、現在すでに雲頂、万龍、太舞、富龍、翠雲山、多樂美地、長城嶺の7つの大型スキー場があり、万達や万科などの不動産デベロッパー大手も相次いでスキー場経営に乗り出している。



浙江省・紹興喬波室内スキー場



中国ではモバイル決済が日常生活に広く浸透している

小売店やレストランで支払いをする際には、店員に「微信(ウィーチャット)にしますか?それとも支付宝(アリペイ)?」と聞かれる。コンビニでちょっとした買物に現金を出そうものなら、ため息をつかれてしまう。



多くのレストランで、モバイル決済やスマホでの注文システムを導入

中国では、モバイル決済が生活のあらゆるシーンに浸透している。外食やスーパーでの買物から、バスや地下鉄などの公共交通機関、病院、光熱費などの公共料金、航空券もスマートフォン(スマホ)で決済できる。

業界研究 中国モバイル決済 「現金お断り」も、当たり前 の中国キャッシュレス社会 微信支付と支付宝の牙城に挑む銀聯「雲閃付」

財布を持たず、スマホだけを手に出かける生活は、若年消費者を中心にすっかり定着している。



各店は多様なモバイル決済方式に対応

スマホ決済普及率世界一の中国
携帯ユーザーの7〜8割が利用

プライスウォーターハウスクーパー
スが公表した「2019年世界消



中国インターネット情報センター（CNNIC）が公表した第43次「中国インターネット発展状況統計報告」によると、18年12月末時点の中国の携帯電話ネットユーザー規模は8.14億人。そのうちモバイル決済のユーザー規模は5.83億人で、17年末に比べて10.7%上回り、



費者意識調査(Global Consumer Insight Survey 2019)によると、中国の人口の86%がすでにモバイル決済を利用。モバイル決済の普及率は世界平均の3倍前後に達し、世界トップ水準だという。

携帯電話ネットユーザーの71.4%に達しているもよう。

市場調査会社のイブソスは、17年より四半期ごとに「中国第三者モバイル決済ユーザー研究報告」を公表している。

この最新版である19年第1四半期の報告によると、中国政府・工信部の公表データを元にした19年2月時点における中国の携帯電話ネットユーザー数は12.7億人（※1人が複数の携帯電話を使用している可能性あり）。ここから試算すると、19年第1四半期時点におけるモバイル決済ユーザー規模は10.1億人（※1人が複数のアカウントを持つている可能性あり）に達するといふ。18年末の9.9億人に比べると、約2%成長したことになる。

16～59歳の消費者に限定すると、モバイル決済ユーザーは約8.1億人となり、全体の80.2%を占める。因みに18年12月末には8億人だった。

キャッシュを抜いたモバイル決済最も良く利用される決済方法に

市場会社イブソスの「2019年第1四半期第三者モバイル決済ユーザー研究報告」によると、モバイル決済の携帯電話ネットユーザーへの浸透率（最近3ヶ月内に使用し

た人の割合）は95.1%に達し、18年12月時点の94.7%から若干増加したもよう。

第三者モバイル決済の年間取引規模は183.79兆円で、前期の推算を約2.3%上回った。年間取引件数は約1.17兆件で、約12.8%増加した。

1回の取引金額の平均額は約157円で、1人当りの1日の平均消費回数は約4回。少額かつ高頻度が特徴といえる。



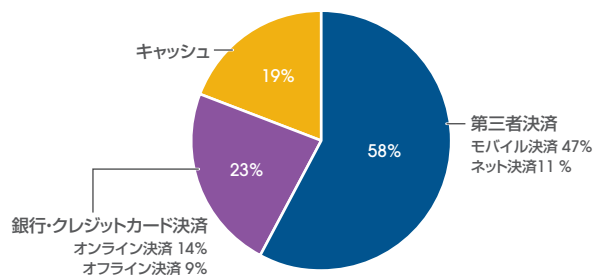
日常の消費の際、第三者決済を利用する人の割合は58%で、うちモバイル決済が47%を占める。キャッシュは19%に止まり、モバイル決済が日常消費の主要ツールとなっていることがわかる。

（図1…日常生活における決済方式の割合）



【図1】日常生活における決済方式の割合

最近3ヶ月の月平均生活消費4290元（サンプル数:2000人）



出典：イブソス「2019年 第1四半期第三者モバイルユーザー研究報告」



南京中央商場の化粧品コーナー

中国政府が三公消費（公費による飲食や海外旅行、公用車の私有化）を制限したことや消費トレンド



蘇寧易购が万達百貨を買収

2019年2月に、家電量販最大手の蘇寧易购（スニン）が万達（ワング）集団傘下の37の百貨店全店を正式に買収することを発表。中国の百貨店業界に新たな注目が集まる契機となった。

業界研究 中国百貨店業界 を徹底分析 業態改革で低迷から脱出か？

の変化、電子商取引（EC）の影響などにより、百貨店業界は業績不振に苦しんできた。閉店に追い込まれた店舗も少なくない。

百貨店業界はこのボトルネックを打破して生き残りの道を探るべく、オンラインとの融合や商品構成の転換、体験（コト）業態の増加、会員制のリニューアルなど、多くの試みに取り組んで来た。

その結果、昨年頃から百貨店業界に景気の底打ち感と、それに続く回復傾向が顕著になり、業績が好転する店舗も増えている。

北京SKPは、17年に1店舗当たり125億元を売り上げ、18年には135億元と更に記録を更新した。

銀泰百貨も年度比で37%と大幅な成長を記録。

王府井集団は純利益がここ5年間で最高となった。

遠東百貨は10年ぶりに黒字に転換。

百盛集団（パークソン）も2017年に黒字転換し、18年も安定的な成長を示した。

百貨店業界全体で多額の投資が相次ぎ、業界の再編とアップグレードが加速化している。

百貨店業態は小幅成長
首位の北京SKP、西安も好調

2018年、中国の社会消費品小売総額（小売全体）は38兆元に達し、前年比9%増となった。一定規模以上の小売企業のうち、スー



中国の代表的な百貨店グループ王府井集団

パー、百貨店、専門店、ブランド専売店の小売額の伸びはそれぞれ6.8%、3.2%、6.2%、1.8%。百貨店の業績は停滞傾向が続いている。

中国百貨商業協会が会員企業90社に対して行った統計によると、18年の百貨店の売上は4.2%増加し、総利益は6.4%増となった。主要業務利益は5.7%、年末資産総額は7.5%の伸びを記録。経営面積が2.1%増えた一方で、従業員は3.1%減となった。

（表1…百貨店業界全体の経営状況）



台湾系の遠東百貨

【表1】百貨店業界全体の経営状況

項目	2018／2017年増減幅(%)
商品売上総額	4.2%
主要業務利益	5.7%
費用総額	-3.7%
利益総額	6.4%
年末純資産	7.5%
従業員数	-3.1%
経営面積	2.1%

出典:中国百貨商業協会

18年の会員企業の売上は、全体の58%が前年比でプラス成長を記録。伸び幅が20%を越えた企業が9社、10%を越えた企業も24社となった。売上が減少した企業は4.2%で、下げ幅が10%を越えた企業は6社だった。

一店舗当たりの売上では北京SKPが首位となり、売上は135億元を越えた。西安賽格の業績も70億元を記録。18年に新たに開業した西安SKPも業績好調で、半年で24億元を売り上げた。杭州大厦、南京中央商場なども高い業績を上げている。

OMO「新小売」がトレンド
全体の6割がEC参入

オンラインとオフラインの融合（OMO: Online Merges with Offline）は、百貨店業態の主流とな



南京中央商場の来客数は多い



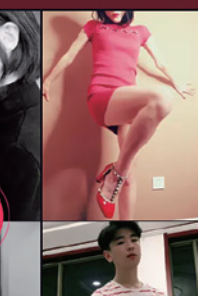
西安賽格は西北地区でトップの百貨店

亮的你

的挑战
与 -

气？是不是匆忙的生活，
能量，弄的你消极、懒惰

面的状态吧！不管这个世
一切才会变好～
内自己开始！



習慣化する中古品取引 & 飽きさせない動画アプリ

比率が約半々となっている。

転載で最も人気の高い商品はスマホで全体の17.5%を占めており、衣料品、靴、帽子類が14.6%、デジタル製品が10.7%、ベビー・マタニティが7.4%とつく。

閑魚は、地域やテーマに紐づいたコミュニティ内での取引が活発なことが特徴だが、同社の統計データによるとコスメ、デジタル、文化・玩具・コレクション、生活・娯楽、動植物が人気コミュニティ上位5位となっている。同じコミュニティ内のユーザーは、近所住まいだったり趣味が共通だったり互いに信

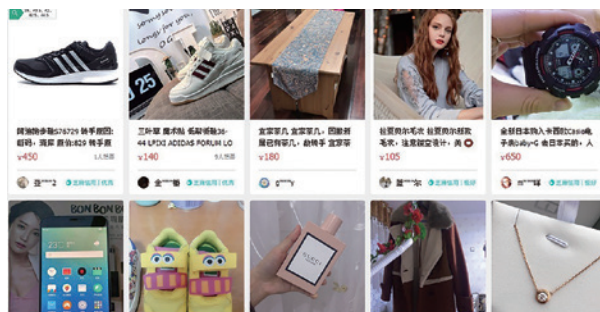
頼感を得やすく、アクティブ度数も41%と極めて高い。出品されている商品の60%以上が、近所に住むユーザーで組織されたコミュニティ内で販売されている。

一般ユーザー重視で人気

他の動画アプリ一般に対する抖音の特徴は、①ユーザーが動画を選択できる再生リストもメニューもなく、アプリが薦めるショート動画が次々と再生される半強制的な手法 ②再生される動画は、ユーザーの視聴履歴などから好みや傾向を自動算出するだけでなく、クオリティの高い作品をスタッフが選ぶ“人の手”による推薦で選ばれる——が挙げられる。これによりスターや網紅の動画も、一般ユーザーの良質なコンテンツも、注目される機会が平等に得られる仕組みとなっている。

かつて芸能人のショート動画を大量投下して人気を集めた「小伽秀」が、タレント効果が薄れるにつれて人気を失ったことと対照的に、抖音は多くの一般ユーザーがショート動画を投稿しつづける構成とすることで関心を維持している。

初心者向けにはスキル伝授コーナーやサンプル映像を豊富に用意。ユーザーに動画制作を促すためのイベント「#（テーマ名）挑戦」も特徴だ。抖音のコンテンツチームが流行や時事ネタをもとに若者の自己表現に適したテーマを設定、悪ノリも交えて動画制作への挑戦を促すもので、ユーザーのリピート率向上に大きく寄与している。



多種多様な品が中古品取引の対象に(閑魚 Web 版)

ユーザーの増加に伴い広告媒体としての需要も増大しているが、企業側からの発信だけでなく、ユーザーからの投稿動画でブランドがブレイクするケースも生じている。火鍋チェーン海底撈やタピオカミルクティ・チェーン CoCo 都可などのブランドが、ユーザーが自分独自の隠れメニューを紹介している人気動画を逆手にとって、新たな人気メニューやサービスを生み出したのはその好例だ。

こうして両分野を比較すると、“一般消費者参加型”が共通項であるかのように見える。だが本当にそうだろうか。B2Cの小売業態に起きている変化と照合すると、それとは異なる共通項が見えてくる。

(分析連携：BizCHINA編集長石原達也)



蒋 佳玲

キャストコンサルティング
コンサルタント

1996年台湾大学政治学部国際関係学科卒業、97年米シラキュース大学広報修士課程終了。その後、台湾地区大手PRエージェンシー、台北101ショッピングモール、米系リアル大手メーカー等を経て、05年からキャストコンサルティングのマーケティングコンサルタント。

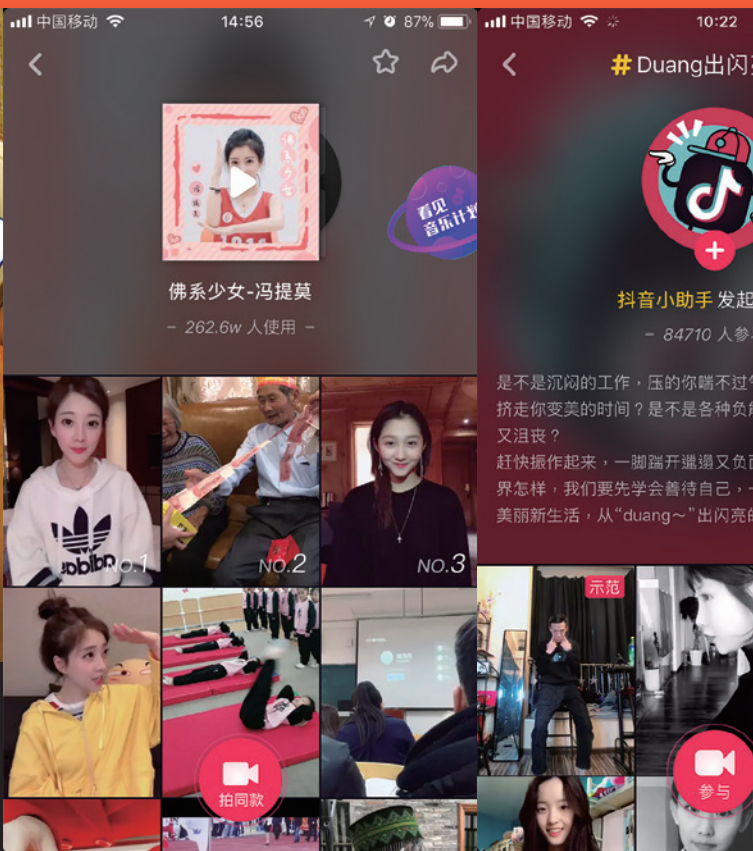
キャストコンサルティング(上海) 加施徳諮詢(上海)

■上海市浦东新区陆家嘴环路1000号
恒生銀行大厦5楼
☎021-6321-3000
🌐http://www.cast-marketing.com/
✉service@cast-marketing.com

都市別マーケティングレポート



指でスクロールしやすい抖音の縦長画面(左)、各BGMに用意されたサンプル映像を参考に多彩な作品が生まれている(中央)、ユーザーのリピート率維持に威力を発揮している「#(テーマ)挑戦」(右)



キャスト中国ビジネス「中国マーケティングEC会員コース」
会報誌『チャイナ・マーケット・インサイト』毎月発行

ご希望の方に会報誌サンプルを無料で送付。
お申し込みは下記サイトから。
<http://www.cast-marketing.com>

中古不用品売買需要の高まりによりフリーマーケット(フリマ)・アプリの人氣が拡大している。有力アプリはアリババ系「閑魚」と、58同城・微信が共同運営する「转转」だ。一方、音楽動画アプリ抖音(Tik Tok=ティックトック)は、自ら撮影・加工した動画を投稿でき、プロ級の動画作成を可能とする諸機能も相まって日本でも人氣を呼んでいる。一見ばらばらな2つのブームに共通の背景は何か。まずはそれぞれの内容を見てみよう。

中古品取引の動向

モバイルビッグデータサービスのQuestMobileが公表した「2017中古品取引洞察報告」によると、フリマ・アプリの利用者は一線・二線級都市居住者が全体の6割超を占めている。

閑魚が2017年11月末に発表した統計データによると取引数上位5位の都市是北京、上海、広州、深圳、杭州の順で、取引額では深圳がトップとなっている。转转のデータでは取引数・取引額の多い都市是北京、深圳、広州、上海、蘇州の順になっている。新一線級都市と

称される成都、杭州、済南、長沙、鄭州でも、年間の商品提供数がそれぞれ87.6%、73.9%、79.5%、103.7%、65.3%と増加。

いずれも中国主要都市での中古品取引が、かなり習慣化していることを表しているといえる。

「2017中古品取引洞察報告」によると人気ジャンルは3Cデジタル製品、衣料品、コスメ類、奢侈品、ベビー・マタニティ、読書関連で、中でも男性は3Cデジタル製品、女性には衣料品、コスメ類、ベビー・マタニティ関連商品を好む傾向が強い。読書関連、奢侈品では男女

編集後記

今回の特集では、中国のウィンタースポーツ市場を取り上げました。2022年の冬季オリンピックの会場が北京に決まって以来、国内外の様々な業界から、中国でのウィンタースポーツの盛り上がりに関心が高まっています。

上海に住み始めてからもうすぐ15年になりますが、これまで冬に雪が降るのは年に1〜2回くらい。国内でどこかスキーに行こうと思うこともなければ、そもそもどこにスキー場があるのかすらわかりません。

中国で初のスキー体験をしたのは、最北端の黒竜江省の省都・ハルビン。それも上海では連日最高気温が40℃を超えた夏真っ盛りの頃。ちょうどオープンしたばかりの万達（ワンダ）広場モールに隣接された世界最大級の室内スキー場でした。

その様子については2017年12月6日付のメルマガ「ハルビンの屋内スキー場体験談」でレポートしているのですが、正直その際にスキーやスノーボード（スノボ）熱の盛り上がりはほとんど感じませんでした。真夏にスキーということで“涼む”ことが目的の客も多いかと思いきや、それほどでもなく、かつほとんどの客がレンタルのウェアと用具。日本のようにカラフルなウェアを来ている人はほとんど見かけません。

もちろん、平日の午後だったこと。さらに冬場のスキー場を見ていないのでなんとも言えませんが、こんな状況で北京オリンピックは大丈夫だろうかと心配させました。

そうした中、今年の春先に上海でたまたま訪れた新規オープンのモールで目にしたのがスキースクールの看板。もしかしてここにも室内スキー場が……と向かったところ、そこには巨大なスロープの設備のみ。まるで“ルームランナー”のような床が回転する構造で、その上をインスタラクターが滑っています。

「SNOW51」というスキースクールのテナント出店だったのですが、その後、別のモールでも同じようなスクールを発見。もしや知らない間に市場が盛り上がっているのではと思い、いざ調べてみると、なんとスキー人口は18年末で2113万人、室内のユーザーですら58万人に上るそうです。北京オリンピックに向けてますます拡大しそうな中国ウィンタースポーツ市場。日本企業もこの絶好の商機をウォッチしておくべきでしょう。（亀）



大亀 浩介

キャストコンサルティング取締役

1996年早稲田大学政治経済学部卒業。台湾のIT企業などを経て、2004年弁護士法人キャスト入所。2005年キャストコンサルティング入社、2007年取締役。会員制「キャスト中国ビジネス」事業を立ち上げたほか、在中国日系企業の事業戦略・運営の支援や中国マーケティングのコンサルティングを行う。著書に『中国ネットビジネス成功へのポイント』（日本経済新聞出版社）のほか、日経MJ（流通新聞）でコラム「中国&アジア商売見聞録」（2013〜18年掲載）、『月刊コンビニ』で中国のコンビニ事情を執筆。講演多数。



蔣 佳玲

キャストコンサルティング（上海）有限公司
コンサルタント

1996年台湾大学政治学部国際関係学科卒業。

中国（台湾含む）でのマーケティング経験を20年以上有し、実務経験に基づいた日系企業の中国進出及びマーケティング・販売・プロモーション戦略と実行のコンサルティング業務を行う。

現在、中国全土をカバーする日本語ビジネス情報誌「WheneverBizCHINA」に都市別マーケティングレポートを連載中。

◆ 著作権

本資料の著作権は出典が明記されているものを除き、原則、キャストコンサルティング株式会社に帰属します。いかなる目的であれ、本資料の一部または全部について、無断で、いかなる方法においても複写、複製、引用、転載、翻訳、貸与等を行うことを禁止します。

◆ 免責

本資料記載の情報は、キャストコンサルティング株式会社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。キャストコンサルティング株式会社は当該情報に起因して発生した損害については、その内容如何にかかわらずいっさい責任を負いません。この情報は執筆時の情報に基づいておりますので、今後登場する法令、司法解釈等により、記述内容と異なる結果が導かれる可能性があることに十分ご注意ください。また、本資料に記載された内容は予告無しに変更されることもあります。

「キャスト中国ビジネス」中国マーケティング・EC会員コース

中国の市場・業界・商習慣を徹底調査&研究

チャイナ・マーケット・インサイト News Letter 2019 JUNE (vol.65) 2019年6月発行

発行:キャストコンサルティング株式会社

〒105-6234 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー34階

TEL:03-5405-7860 FAX:03-5405-3308 メール:service@cast-marketing.com

© 2019 CAST Consulting Co., Ltd. All Rights Reserved

中国マーケティング・EC会員コース

中国市場徹底攻略! 専門性の高い情報とコンサルティングの融合による、スピーディで精緻なビジネスサポートを提供いたします。

当会員コースにご入会いただくと…

1 中国現地生情報をリアルタイムにレポート!
会報誌「チャイナ・マーケット・インサイト」が毎月届く!!

毎月20日発行、ウェブコンテンツを冊子形式に編集し、お手元に郵送いたします。(1・2月と7・8月は合併号となります)

2 個別調査案件レベルの量および質のコンテンツほか
精度の高い情報の数々が、24時間オンラインで閲覧可能!!

クライアント様から、個別に受注する調査案件と同等レベルのクオリティです。

3 コンサルタントがビジネス相談に対応!! (メール・TEL)

中国での調査・販売に関する各種相談に電話またはメールでコンサルタントが対応いたします。
また、業界・市場の実態や販売店リストなども、デスクリサーチ(ネット上での情報収集に限る)の範囲内であれば会費内で対応可。
(内容によっては、別途お見積もりを提示する場合がございます)



この内容で、わずか月々50,000円/4,000元(税別)!!

ご契約は日本or中国いずれも可能。ご契約期間は1年単位で承っております。
・その他ご契約条件、利用規約等については、弊社ホームページご入会案内をご覧ください。

「それが知りたかった!」にお応えする、キャスト独自のコンテンツラインナップ

中国マーケティング専門のコンサルタントが現地視察・取材を敢行!

中国の市場・消費者・
流通・小売・物流・都市・
業界などの情報が
盛りだくさん!!

- ・中国沿岸部から内陸の三・四線級都市まで網羅した「都市別レポート」
- ・各都市の80后・90后の家庭を訪問調査し消費動向を見据える「消費者研究」
- ・自動車、流通、食品など各業界のリーディング企業から読み解く「業界動向」
- ・中国で活躍する市場部マネージャー級人材への取材から把握する「実務の視点」
- ・統計データから中国市場・業界のいまと今後を知る「数字で見る中国」など

マーケティングレポート 一例

- ・香港系大手ドラッグストア「ワトソンズ(屈臣氏)」徹底研究
- ・外資系大手スーパー「カルフルー」徹底研究
- ・大潤発に学ぶ中国市場攻略の方程式
- ・中国ネット通販最大手「淘宝」トップ店舗徹底研究
- ・ブルガリとセリーヌを徹底分析! 中国奢侈品市場
- ・台湾系の85度C、中国で躍進のポイント など

都市別レポート 一例

上海・北京・広州・成都・重慶・瀋陽・青島・
ハルビン・杭州・寧波・蘇州・南京・天津・長沙・
無錫・湖州・西安・武漢・鄭州・合肥・温州 など
掲載都市は随時更新中!!



キャストコンサルティング株式会社 会員サービス事務局 TEL: **03-5405-7860**

MAIL: service@cast-marketing.com 〒105-6234 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー34階